

サマリアでの福音の勝利

2022年7月3日

使徒の働き 8章9～25節

序：エルサレム ⇒ ユダヤとサマリアの全土 ⇒ 地の果てまで
↑
ステパノの殉教、エルサレム教会への迫害、使徒は留まる
信徒は離散
散らされた信者たちはみことばを宣べ伝えながら巡り歩いた

ピリポ（ステパノと同じく7人の執事の一人）のサマリア伝道 ⇒ リバイバル
大きな喜び

ユダヤ人とサマリア人

行き来、交流はしなかった（軽蔑、偏見、反目） ヨハネ 4・1～26
ルカ 10・25～37

イエスが12人の弟子を伝道に派遣する時、「異邦人の道に行ってはいけない。
サマリア人の町に入ってはいけない。」と命じた。 マタイ 10・5

↓
復活後、イエスは言われた。「全世界に出て行き、すべての造られたものに福音を
宣べ伝えよ」 マルコ 16・15

ピリポが行っていた奇跡を見、福音を語るのを聞いた人々の魂と身体の癒し
多くの回心者（サマリア人たちもメシアを熱心に待望、イエスがそのメシアと宣言

I. 魔術師シモン

病人や弱者を食い物にして、金儲け (by 魔術 by 悪霊)
キリスト教の異端の元祖
サマリアでは一種の英雄 (強い影響力、人々の関心、神的な力を持つと崇拜の的)
(自分でも、偉大な人間だと豪語)

II. 宣教者ピリポ

執事として任命、信徒伝道者 (散らされたゆえに)
福音 (イエス・キリストの救いの道) の証し+癒しの業 (with&by聖霊)

III. サマリアの人々

シモンしか知らないときは、かれに心酔、癒しのわざに驚嘆、依存
ピリポが来たことにより、奇跡を見て語ることに関心を持った

↓
神の国とイエス・キリストの御名
支配・力 恵み、

シモンの奴隷 → キリストの自由なしもべ
二人とも不思議な業を行い、人々の驚嘆の的
人々を従わせた

魔術によって悪霊に支配される ⇒ キリストのもたらす力と喜び
自由も責任も伴う生活

シモンもサマリアの主を信じた人々もバプテスマを受けた

IV. 使徒たちのサマリア訪問

エルサレムに留まっていた使徒たちに、サマリア宣教の結果が知らされた
ふたりの使徒（ペテロとヨハネ）が代表として訪問・視察
バプテスマは受けたが、聖霊が降っていなかったサマリアの回心者たちに聖霊を
求めた（按手） 聖霊を受けたことが公認
シモンの怪しい動機、金で神の賜物を買おうとすることへの対応
エルサレムへの帰途、サマリア人の村々で福音を宣べ伝えた

V. シモンの信仰に関する議論

信じてバプテスマを受けた（彼の関心は、自分に優るピリポの活動・能力）
ピリポの行う奇跡を見て、驚いていた（現象のみに関心、源や目的には無関心）
按手によって聖霊が与えられること（力とするし）への誤解
自分もその非常な力・権威を持ちたい（金で買えると考えた）（後で金儲け？）
ペテロははっきりと拒否、叱責、シモンの罪を指摘、悔い改めが赦しの条件
偽りの信仰？ 神の賜物を金で左右できると考える 神の前に正しくない
本来の悪の性質、止まない罪の習慣＝苦い悪意、不義の束縛
解決は、悔い改めて、主に祈れ
だが、シモンはそうしたか？ 恐ろしい結果を招かないよう執り成しを願ったが

VI. 結び

自己目的達成の手段としての信仰
使徒職への誤解

例：「先生」と呼ばれたい（人々から尊敬されたい、取り巻かれていたい）
「牧師にでもなろうか」「牧師にでもなったら？」（人間の思いや考え）

聖職売買：シモンが元祖

現在でも巨大な宗教組織で、金で地位を獲得

大切なのは神によって召命を受けているかどうか

ペテロもヨハネも完全ではなかったが、神の賜物と召命は変わらなかった

サマリア人がかつて主イエスを拒否 激怒したヨハネ（ルカ9・54）

主イエスがかつて「サマリア人のところに行ってはいけない」と言われた

そのサマリアで、時満ちてリバイバル、福音の拡大、勝利（神の計画の成就）